

平成14年度 長崎国際大学入学試験問題

3 月 入 試

国語〔国語Ⅰ・国語Ⅱ〕 (100点 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、18 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マーク（●印）しなさい。
 - ① 受験番号欄
受験番号（数字）を記入しなさい。
正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
 - ② 氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ③ 志望学科欄， 解答科目欄， 試験会場欄
該当する欄にマーク（●印）しなさい。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマーク（●印）しなさい。例えば

10

 と表示されてある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号 10 の解答欄の③の欄にマーク（●印）しなさい。

（例）

解答 番号	解 答 欄				
	①	②	③	④	⑤
10			●		

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験終了後、問題冊子は机上に残しておきなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

畠山重忠が、馬を射られ、水の底をくぐって岸に取り付く。「注1 うちあがらんとする所に、注2 後ろよりもこそむずと控へたれ。誰ぞと問へば、重親と答ふ。大串か、注3 さん候ふ。大串の次郎は注4 畠山がためには、注5 烏帽子子にてぞ候ひける。あまりに水が早うて、馬をば川中よりおし流され候ひぬ。注6 力及ばでこれまで著き参つて候ふと言ひければ、畠山、いつも注7 わ殿ばらがやうなる者は、重忠にこそ注8 助けられんずといふままに、大串をつかんで、岸の上へぞ投げ上げた。投げ上げられて注9 ただなほり、太刀を抜いて額にあて、大音 声をあげて、武蔵の国の任人大串の次郎重親、宇治川の注10 歩立の先陣ぞや、とぞ名乗つたる。敵もこれ聞いてA 一度にどつとぞ笑ひける。」

込み上げてくるわだかまりのまりのない吐笑が激戦の合図だ。これが「平家」という大音楽の(ア)セイ随である。「平家」の人々はよく笑い、よく泣く。僕らは、彼ら(イ)強ジンの声帯を感じるように、彼らの涙がどんなに塩辛いかも理解する。だれもいたずらに泣いてはいない。b は彼らを泣かすことはできない。通盛卿の討ち死にを聞いた小宰 相は、船の上に打ち伏して泣く。泣いているうちに、しだいに物事をはつきりと見るようになる。(1) 夢ではあるまいかとゆうような様々な感いは、涙とともに流れ去り、自殺の決意が目覚める。とともに突然自然が目の前に現れる、常にあり(2) 彼女の一度も見たことないような自然が。「漫々たる海上なれば、いづちを西とは知らねども、月の入るさの山の端を云々。」宝井其角の「平家なり太平記には月も見ず」は有名だが、この趣味人の見た月はどんな月だったろうかおぼつかない気持ちがする。

「平家」のあの(ウ)ボウ頭の今 様 風の哀調が、多くの人々を誤らせた。「平家」の作者の思想なり、(エ)人生カシナリが、そこにあると信じ込んだ為である。一応、それはそうに違いないけれども、何も平家の思想はかくかくのもと(オ)シ細らしく取り上げてみるほど、B 「平家」の作者は優れた思想家ではないというところが肝心なので、彼はただ当時の知識人として月並みな口を利いていたにすぎない。物語の中でのただ一人の思想家重盛にしてからが、その説くところ、ほとんど矛盾撞 着して、

(カ)不テツ底な愚にもつかぬものであり、それが、作者から同情の念をもって描かれているらしいところから推しても、分かるのである。作者を本当に動かし導いたものは、彼のよく知っていた当時の思想というようなものではなく、彼自らはつきり知らなかった叙事詩人の伝統的な魂であった。彼自ら知らぬところに、彼が本当によく知り、よく信じた魂が動いていたのであって、「平家」が多くの作者たちの手により、(3) 読者らの手によって合作され、しかもC誤らなかつたゆえんもそこにある。「平家」の(キ)シン正な原本を求める学者の努力は結構だが、俗本を(ク)逐し得たとする自負なぞつまらぬことである。流布本にはいわゆる原本なるものがあるよりも美しい叙述がしばしば現れる。「平家」の哀調、感わしい言葉だ。このシンフォニーは単調で書かれていると言ったほうがいいのである。一種の哀調は、この作のCとしての驚くべき純粹さからくるのであって、仏教思想というようなものからくるのではない。「平家」の作者たちの厭人も厭世もない詩魂から見れば、当時の無常の思想のごときは、時代のはかない(ケ)意シヨウにすぎぬ。鎌倉の文化も風俗も手玉にとられ、人々はそのころの風俗のままに諸元素のような変わらぬ強いあるものに(コ)カン元され、自然のうちに織り込まれ、僕らを差し招き、真実な回想とはどういうものかを教えている。

注

- 1 うち上がらんとする―岸に上がろうとする
- 2 後ろよりもこそむずと控へたれ―背後から何かがむずとひつつかんだ
- 3 さん候ふ―さようでございます
- 4 畠山がためには―畠山には
- 5 烏帽子子―元服する者
- 6 力及ばでこれまで著き参つて候ふ―どうしようもなくあなたにつかまり申し上げたのです。
- 7 わ殿ばら―お前さんたち
- 8 助けられんずれといふままに―助けられるようだなと言うやいなや
- 9 ただなほり―まっすぐに立って
- 10 歩立―馬ではなく徒歩で行動した。

(小林秀雄 『平家物語』筑摩書房による)

問 1 傍線部(ア)～(コ)は熟語の一部である。これに当る漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれひとつずつ選べ。
 解答番号は 1 ～ 10

⑨ (ケ) 意シヨウ

⑤ ④ ③ ② ①
 景シヨウ 敬シヨウ 解シヨウ 師シヨウ 高シヨウ

⑤ (オ) シ細

⑤ ④ ③ ② ①
 奉シ 君シ 禁シ 開シ 収シ

① (ア) セイ髓

⑤ ④ ③ ② ①
 セイ約 セイ密 セイ純 セイ名 セイ座

⑩ (コ) カン元

⑤ ④ ③ ② ①
 カン状 坎用句 坎付金 坎気団 坎気扇

⑥ (カ) 不テツ底

⑤ ④ ③ ② ①
 テツ学 更テツ テツ筋 テツ回 テツ夜

② (イ) 強ジン

⑤ ④ ③ ② ①
 ジン速 御ジン 深ジン ジン帯 敵ジン

⑦ (キ) シン正

⑤ ④ ③ ② ①
 シン念 シン妙 シン級 シン刊 シン価

③ (ウ) ボウ頭

⑤ ④ ③ ② ①
 ボウ陰 ボウ脹 ボウ積 ボウ飲 ボウ聴

⑧ (ク) ク逐

⑤ ④ ③ ② ①
 ク使 ク域 ク集 ク労 ク養

④ (エ) 人生カン

⑤ ④ ③ ② ①
 カン誘 カン喜 カン覧 カン起 カン興

問2 空欄(①) () (③) に入る語句として適切なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は

11

く

13

(①)
11

⑤ ④ ③ ② ①
なお
もしや
しかし
ところが
それで

(②)
12

⑤ ④ ③ ② ①
やがて
どうしても
しかも
また
いかにも

(③)
13

⑤ ④ ③ ② ①
むろん
いまさら
では
あるいは
すなわち

問3 空欄

解答番号は

14

く

16

14 a 16 c を補う語句として適切なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

14 a

⑤ ④ ③ ② ①
天才
自然
風雲
優良
健康

15 b

⑤ ④ ③ ② ①
不幸
現実
平和
空想
友情

16 c

⑤ ④ ③ ② ①
シンフォニー
叙情詩
叙事詩
仏教思想
無常の思想

問4 二重傍線部Aの「一度にどっとぞ笑ひにける」について、「大串の次郎重親」に対して回りの者が笑った気持ちとして適

切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 畠山重親に対する常日ごろ恩をも顧みず、戦場での名声を独占しようとする重親の醜い態度を軽蔑する気持ち。
- ② 畠山重忠の助けを受けたにもかかわらず、先陣の名乗りをあげる重親の抜け目のなさを愉快極まりなく思う気持ち。
- ③ 畠山重忠に自分の成長した姿を見せようとして、単身で敵陣に乗り込んでいく重親の勇猛さを痛快に思う気持ち。
- ④ 畠山重忠の怒りに触れたことも知らず、彼の期待を一身に担っていると錯覚する重親の考えの浅はかさを非難する気持ち。
- ⑤ 畠山重忠に投げられた恥ずかしさを紛らわそうとして、敵前で声を振り絞る重親の機転の速さを驚喜する気持ち。

問5 二重傍線部B『「平家」の作者は優れた思想家ではないというところが肝心なので』の表現に込められた筆者の思いとし

て適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 「平家」は一般的に高い評価を与えられているが、実際にはそれほど値打ちのある思想書ではない。
- ② 「平家」は月並みな思想書であったからこそ、一般の人々に広く読み継がれて今日に至っているのである。
- ③ 「平家」の作者が思想の力を借りずにあるのままの感動を描いたところに、この作品のすばらしさがある。
- ④ 「平家」の作者が意識的に思想を排除したところに、この作品独特の哀調の原因がある。
- ⑤ 「平家」の作者が思想家として劣っていたからこそ、努力してこのようなりっぱな作品を完成させたのである。

問 6 二重傍線部C「誤らなかつたゆえん」について、「誤らなかつた」理由として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 原作者の心に、後の合作者たちにも共有できる伝統的な詩魂が働いていたから。
- ② 後の合作者が、原作者の心に働いていた伝統的な詩魂を正しく理解するよう努めたから。
- ③ 後の合作者が、原作者よりもすばらしい叙事詩人であつたから。
- ④ 原作者も後の合作者ともに、自分自身が叙事詩人であることを知っていたから。
- ⑤ 原作者も後の合作者ともに、「平家」に伝統的な詩魂が流れていることを理解していたから。

問 7 この文章から推測して、「平家」は一般的には、どの評価を受けていると考えられるか、適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 今様風の哀調が人の心を悲しませる伝統的な叙事詩。
- ② 流布本と原本との間に多くの相違がある、複数の作者を持つ作品。
- ③ 鎌倉の文化や風俗を自然のうちに織り込んだ、叙述の美しい作品。
- ④ 学者の努力によって原本の持つ哀調が証明された叙情的作品。
- ⑤ 仏教思想、特に無常の思想が全編に反映された思想的作品。

第2問 次の文章は、井伏鱒二の「山椒魚」の一節である。これを読んで後の問い(問1～問11)に答えよ。

一生を岩屋に閉じ込められるという絶体絶命の窮地に陥った山椒魚は悲嘆にくれ、孤独感にさいなまれて迷い込んできた蛙を、自分と同じ立場に追い込んで激しく対立を続ける。が、歳月が流れ、山椒魚の中には和解の気持ちが生じてくる。蛙もそれを受け入れる気配であり、両者はそのことでわずかに慰められ、救われる。

山椒魚は再び試みた。それは再び(ウ)ト^ト_トに終わった。なんとしても彼の頭は穴につかえたのである。

彼の目から涙が流れた。

「ああ神様！あなたは情けないことをなさいます。たった二年間ほど私がうっかりしていたのに、その罰として、一生涯この穴蔵に私を閉じ込めてしまうとは(イ)オ^オウ^ウ暴^ボであります。私は今にも気が狂いそうです。」(①)

諸君は、発狂した山椒魚を見たことではないであろうが、この山椒魚にいくらかその傾向がなかったとはだれが言えよう。諸君はこの山椒魚を(ウ)嘲^ウショウ^ウしてはいけない。すでに彼が飽きるほど暗黒の(エ)ヨク^エ槽^ウにつかりすぎて、もはや(オ)我^オマン^ウがならんでいるのを、(カ)リョウ^カ解^ウしてやらなければならない。いかなる(注1)瘋癲^カ病^ウ者^ウも、自分の(キ)ユウ^キ閉^ウされている部屋から解放してもらいたいと絶えず願っているではないか。最も人間嫌いな囚人でさえも、A^キこれ^ウと同じことを欲しているではないか。(②)

「ああ神様、どうして私だけがこんなによくぞな身の上でなければならぬのです？」

岩屋の外では、に大小二匹のみずましが遊んでいた。彼らは小なるものが大なるものの背中に乗っかり、彼等は(ク)ト^クウ^ウ突^ウな蛙の出現に驚かされて、a^クに逃^ウげ回^ウった。蛙は水底から水面に向かって勢いよく律をつくって突進したが、その三角形の鼻先を空中に現すと、水底に向かって再び突進したのである。(③)

彼は目を閉じてみた。b。彼は彼自身のことを例えればブリキの切りくずであると思っただけである。

だれしも自分をあまり愚かな言葉でたとえてみることはこのまないであろう。ただ不幸にその※もののみが、自分自身はブリキの切りくずだなどと考えてみる。たしかに彼等は深くふところ手をして物思いにふけったり、手ににじんだ汗をチョッキの胴でぬぐったりして、彼らほどおのおの好みのままの格好をしがちなものはないのである。(④)

山椒魚は閉じたまなこを開こうとはしなかった。なんとすれば、彼にはまぶたを開いたり閉じたりする自由と、その可能とが与えられていただけであつたからなのだ。(⑤)

その結果、彼のまぶたの中では、いかに合点のゆかないことが生じたではなかつたか！目を閉じるといふ単なる形式が巨大な暗やみを決定してみせたのである。その暗やみは際限もなく広がった深淵であつた。だれしもこの深淵の深さや広さを言い当てることはできないであろう。

— どうか諸君に再びお願いがある。山椒魚がかかる常識に没頭することを軽蔑しないでいただきたい。

牢獄の見張り人といえども、よほど気難しいときでなくては、終身懲ちよう 役えきの囚人がc。嘆息をもらしたからといって叱りつけはしない。

B 「ああ、寒いほど独りぼっちだ！」

注意深い心の持ち主であるならば、山椒魚のすすり泣きの声が岩屋の外にもれているのを聞きのがしはしなかつたであろう。

(中 略)

更に一年の月日が過ぎた。二個の鉱物は、再び二個の生物に変化した。けれど彼らは、今年の夏はお互いに黙り込んで、そして互いに自分の嘆息が相手に聞こえないように注意していたのである。

ところで山椒魚よりも先に、岩のくぼみの相手は、不注意にも深い嘆息をもらしてしまった。それは「ああああ。」という最も小さな風の音であつた。去年と同じく、しきりに杉苔の花粉の散る光景が彼の嘆息をそよのか 唆したのである。

山椒魚がこれを聞きのがす道理はなかつた。彼は上の方を見上げ、かつ **友情** を瞳に込めて尋ねた。

「おまえはさっき大きな息をしたらう？」

相手は自分を**D**鞭撻して答えた。

「それがどうした？」

「そんな返事をするな。もうそこか隄きりてきてもよろしい。」

「空腹で動けない。」

「それでは、もうだめなようか？」

相手は答えた。

「もうだめなようだ。」

よほどしばらくしてから山椒魚はたずねた。

E 「おまえは今、どういうことを考えているようなのだろうか？」

相手は極めて遠慮がちに答えた。

F 「今でもべつにおまえのことを怒ってはいないんだ。」

※出題にあつたて語句を一部手直しました。

(注1) 瘋癲Ⅱ精神病の俗称。狂気。

(井伏鱒二『山椒魚』筑摩書房による)

問1 傍線部(ア)～(ク)は熟語の一部である。これに当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は

21

28

27 (キ) ユウ閉

⑤ ④ ③ ② ①

ユウ情
ユウ退
ユウ玄
ユウ然
ユウ送

24 (エ) ヨク槽

⑤ ④ ③ ② ①

尾ヨク
ヨク朝
ヨク望
ヨク留
ヨク場

21 (ア) ト勞

⑤ ④ ③ ② ①

ト会
ト上
ト弟
ト息
北ト

28 (ク) トウ突

⑤ ④ ③ ② ①

トウ資
トウ否
トウ至
トウ詩
トウ結

25 (オ) 我マン

⑤ ④ ③ ② ①

自マン
マン足
マン一
マン然
マン延

22 (イ) オウ暴

⑤ ④ ③ ② ①

オウ復
オウ着
オウ戦
中オウ
オウ位

26 (カ) リヨウ解

⑤ ④ ③ ② ①

リヨウ承
リヨウ親
リヨウ好
リヨウ金
リヨウ風

23 (ウ) 嘲シヨウ

⑤ ④ ③ ② ①

シヨウ本
起シヨウ
シヨウ集
冷シヨウ
憲シヨウ

問2 作家井伏鱒二の作品でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は

29

- ① 屋根の上のサワン
- ② 集金旅行
- ③ 黒い雨
- ④ 聖ヨハネ病院にて
- ⑤ 駅前旅館

問3 空欄

a

c

に入る語句として適切なものを、次の各郡の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は

a

30

b

31

c

32

。

a

||



- ① きちんと直線を折り曲げた形。
- ② でたらめに直線を折り曲げた形。
- ③ 几帳面に直線を折り曲げた形。
- ④ でたらめに曲線を折り曲げた形。
- ⑤ バランスよく直線と曲線を折り曲げた形。

b

||



- ① 淋しかった。
- ② 楽しかった。
- ③ 悲しかった。
- ④ 苦しかった。
- ⑤ 疎ましかった

c

||



- ① 時には
- ② いたずらに
- ③ もはや
- ④ ひんぱんに
- ⑤ すこしだけ

問4 空欄

※

には、「心」を使った慣用句が入る。適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

33。

- ① 心を入れ替える
- ② 心を鬼にする
- ③ 心をかきむしられる
- ④ 心を休める
- ⑤ 心を読む

問5

文中には次の一文が欠落している。この文はどこに続くか。本文中の文末番号（①）～（⑤）のうちから一つ選べ。解答番号は

34。

「山椒魚はこれらの活発な動作と光景を感動の瞳で眺めていたが、やがて彼は自分を感動させるものから、むしろ目を避けたほうがいいということに気がついた。」

問6

二重傍線部A「これ」とは何をさすか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

- ① 発狂した山椒魚
- ② 最も人間嫌いな囚人
- ③ 「ああ神様、どうして私だけがこんなやくざな身の上でなければならぬのです？」
- ④ 自分のユウ閉されている部屋から解放してもらいたいと絶えず願っている。
- ⑤ 彼が飽きるほど暗黒のヨク槽につきりすぎて、もはや我がマンがならないでいる。

問 7 二重傍線部 B 「ああ、寒いほど独りぼっちだ！」の言葉から、この時の山椒魚の様子として最も適切なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

36。

- ① 穴蔵の中で生活してゆく自信が失われたので、無気力になっている様子。
- ② まぶたを閉じて気づいた暗やみが、かえって孤独感をつのらせている様子。
- ③ 自分の力では穴から出られないことを知り、不安感が高まっている様子。
- ④ 自分が自由だと思っていたことが完全に裏切られ、絶望している様子。
- ⑤ 何もかもが絶望感に打ちひしがれ、号泣している様子。

問 8 二重傍線部 C 「友情」の説明として正しいと思うものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

37。

- ① 同じ境遇・心理を持つに至った相手への友情。
- ② 自分が苦しめた相手への同情を込めた友情。
- ③ 相手の忍耐強さに対する敬意からくる友情。
- ④ 相手を苦しめてしまった後悔からくる友情。
- ⑤ 長い間に生まれた相互理解からくる友情。

問9 二重傍線部D「鞭撻」の意味として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① わざと軽蔑してみせること。
- ② 無理におさえつけること。
- ③ いましめ、はげますこと。
- ④ 反発する立場におくこと。
- ⑤ 深く反省すること。

問10 二重傍線部E「おまえは今、どういうことを考えているのだろうか？」のような表現法を何というか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 39。

- ① 直喩表現（明喩）
- ② 隱喩表現（暗喩）
- ③ 擬人法
- ④ 婉曲表現
- ⑤ 誇張表現

問11 二重傍線部F「今でもべつにおまえのことを怒ってはいないんだ。」の蛙の言葉に込められた心情として、正しいと思うものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 40。

- ① 自分の死を確信しつつも、山椒魚を安心させてやりたいと願う慈愛の気持ち。
- ② 自分の死を確信して初めて、山椒魚を心の底から許してあげようと思う気持ち。
- ③ 自分の死を半ばあきらめつつも、自分に悪さをした山椒魚には本心を明かしたくないと思う気持ち。
- ④ 自分の死を確信しつつも、山椒魚に最後の氣力を振り絞って助けてもらいたいと願う気持ち。
- ⑤ 自分の死を半ばあきらめつつも、山椒魚の気持ちにも理解を示そうとする気持ち。

第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

日常の言葉でまず心遣いが必要なのは、人間関係にかかわるものであろうけれども、「食」の言葉にも、かつては心遣いの感じられる、なかなかよい言い方があった。(①)

「Ⅰ」、食物が㉠敗^クしていた時、「a」と、露骨な言い方をされると、自分それを口にする気になれそうもない。「b」と、それとない言い方をしたものだ。夏などに御飯が傷んでいた時には、「c」と言った。(②)

お膳の干物を口にして、あ、これはちよつと……と感じた時には、「これ※^ク^クようね。やめといたほうがよさそうね。」というふうに言つて、さりげなく下げてしまう。しかし、近ごろでは専ら「クサる」が使われているようである。(③)

「Ⅱ」「食」の言葉だが、「小食・大食」という言い方は昔はあまり聞かなかった。(④)

「小食」のことは「食が細い」と言い、食欲の有無には「食が進む・食が進まない」という言い方があった。(⑤)

「Ⅲ」、「大食」のほうはどう言っていたか。育ち盛りの息子の大食ぶりなどには、「気持ちのよいほどよくいただきます。」と言つたりしたようだが、ほかにはどのような言い方もなかったように思う。自分のことでも、人のことでも、大食であることなど、(イ)張^クして言えば美(ウ)意^クシキの上から言いかねたのだ。A失^クわれようのない、もともとなかった言葉である。

(河野多恵子『「食」の言葉』雑誌「ポエティカ」による)

問1 傍線部(ア)ゝ(ウ)は熟語の一部である。これに当たる漢字を含むものを、次の各群の①ゝ⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 41 ゝ 43

(ア) フ|敗
41

- | | | | | |
|----|----|----|----|----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| フ沈 | フ任 | フ担 | フ乱 | フ養 |

(イ) コ|張
42

- | | | | | |
|----|----|----|----|----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| コ客 | コ示 | コ用 | コ笛 | コ畔 |

(ウ) 意|シキ
43

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 常シキ | シキ覚 | シキ布 | シキ典 | シキる |

問2 波線部「専ら」は何と読むか。次の①ゝ⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 44

- ① みずから ② せんら ③ かたわら
- ④ もつぱら ⑤ なまくら

問3 空欄「Ⅰ」ゝ「Ⅲ」に入る語句として適切なものを、次の①ゝ⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は Ⅰ Ⅱ 45 、 Ⅱ Ⅱ 46 、 Ⅲ Ⅱ 47

- ① しかし ② では ③ たとえば
- ④ かくて ⑤ やはり

問 4 空欄 ※ には、「舌」を使った慣用句が入る。適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **48**。

- ① 舌を振るう
- ② 舌が回る
- ③ 舌を出す
- ④ 舌を巻く
- ⑤ 舌さす

問 5 二重傍線部 A の「失われようのない、もともとなかった言葉」とは何をさすか。適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **49**。

- ① 大食
- ② お膳
- ③ 小食
- ④ 干物
- ⑤ 一箸

問 6 文中には次の一文が欠落している。この文はどこに続くか、本文中の文末番号（①）～（⑤）のうちから一つ選べ。解答番号は **50**。

「食欲」は、お医者さんとの間で使われるくらいのもだった。

平成14年度 長崎国際大学入学試験

3 月 入 試

< 解 答 >

国語 I・II

国語 I・II(解答番号 1 ~ 50)

解答番号	解答	解答番号	解答
1	4	26	5
2	2	27	3
3	5	28	2
4	3	29	4
5	4	30	2
6	1	31	3
7	1	32	2
8	5	33	3
9	2	34	3
10	3	35	4
11	2	36	2
12	3	37	1
13	4	38	3
14	2	39	4
15	4	40	5
16	3	41	2
17	2	42	4
18	3	43	5
19	1	44	4
20	5	45	3
21	3	46	5
22	4	47	2
23	2	48	5
24	1	49	1
25	5	50	4